

2023年度

日本福祉大学大学院 科目等履修

開講科目 科目概要



日本福祉大学大学院

目次

■履修登録期限【前期】科目	※前期履修登録期間のみ登録可能	頁
私の研究テーマと研究方法		1
会計学		2
スーパービジョン論		3
福祉サービスマネジメント概論		4
医療福祉政策論		5
経営管理概論		6
プログラム評価論		7
ソーシャルワーク論		8
研究方法概論		9
福祉産業論		10
福祉サービスマネジメント特講 I		11

■履修登録期限【後期】科目	※前期・後期履修登録期間ともに登録可能	頁
地域福祉論		12
医療福祉経営論		13
医療福祉経済論		14
精神保健福祉論		15
保健・医療・福祉サービス論		16
心理統計法特論		17
マーケティング論		18
ケアマネジメント論		19
人材マネジメント論		20

科目名	私の研究テーマと研究方法	2 単位
担当教員	綿 祐二	
科目のねらい	この科目は、全研究科が合同で開講する大学院統一導入科目である。大学院で研究を始めようとする院生に本学の教員が取り組んでいる研究テーマやそれに応じた研究方法を紹介する。また社会連携の視点から一般市民の皆さん、これから研究者をめざそうとする方々、実務関係者、そして学部学生にも広く公開している。各教員がルー形式で、自分の研究テーマ、研究の背景、問題関心、研究方法、あるいは研究者としてたどった道筋などを解説する。扱う領域は福祉、心理、経営、開発、看護など多岐にわたる。本学教員の研究に直にふれることで研究の楽しさの一端を知るとともに、それぞれの研究の切り口へのガイドとしてほしい。	
授業の 進め方	4 月 10 日(月)	
	6 限 18:25-19:55	綿 祐二 オリエンテーション
	4 月 17 日(月)	
	6 限 18:25-19:55	鷲野明美 刑事司法とソーシャルワークの連携ー高齢者犯罪への対応に関する日独比較研究ー
	7 限 20:05-21:35	斉藤雅茂 高齢者の社会的孤立の予防・軽減にむけた地域介入の実証・実装研究
	5 月 8 日(月)	
	6 限 18:25-19:55	吉村輝彦 これからの地域づくりをどのように捉えていくのか：実践と理論の往還
	7 限 20:05-21:35	原田正樹 地域共生社会の思想と施策ー地域福祉の視点からー
	5 月 22 日(月)	
	6 限 18:25-19:55	【調整中】 【調整中】
	7 限 20:05-21:35	木全和巳 ソーシャルワーク実践理論における「エンパワメント」概念の批判的検討ーJan Fook(2016)『ソーシャルワークー実践へのクリティカル・アプローチ』(第三版)を手がかりにしつつー
	6 月 5 日(月)	
	6 限 18:25-19:55	末盛 慶 【調整中】
	7 限 20:05-21:35	山田壮志郎 日本における貧困問題と生活保護
	6 月 19 日(月)	
	6 限 18:25-19:55	【調整中】 【調整中】
	7 限 20:05-21:35	小松理佐子 現代社会福祉における民生委員制度の意義
	7 月 3 日(月)	
	6 限 18:25-19:55	福元理英 学習に困難のある子どもの理解と支援
	7 限 20:05-21:35	大谷京子 スーパービジョンスキルの可視化
	7 月 10 日(月)	
	6 限 18:25-19:55	新谷 司 新谷司著(2023)『ポスト実証主義の会計学』(中央経済社)の出版
	7 限 20:05-21:35	保正友子 ソーシャルワーカーの実践能力評価指標と業務マネジメントー育て上手なソーシャルワーカーになるためにー
事前学習の内容 学習上の注意	講義ごとにコメント用紙を提出すること。※nfu.jp 上に、講義日の翌日中に提出。	
テキスト	なし	
成績評価 方法と基準	小レポート 50 点、最終課題レポート 50 点で 100 点満点。60 点以上を合格とします。 小レポートは講義ごとに所定の様式で提出いただくものです。最終課題レポートは全 15 講義のうち、少なくとも 2 講義を選んで、それぞれについて(単なる感想でなく)「講義から学んだこと」を所定の用紙に 1 講あたり 1 枚に書いて、全 15 講義終了後に所定の方法で提出してください。	

科目名	会計学(隔年開講科目、2023 年度開講)	2単位
担当者	新谷 司	
テーマ	福祉事業の法人及び施設の財務諸表を作り、読み、分析する	
科目のねらい	<キーワード> 財務諸表、財務会計、簿記、経営分析、社会福祉法人 <内容の要約> 非営利組織の典型である社会福祉法人とその福祉事業の財務諸表に基づいて、財務会計、簿記、経営分析の基本的な思考や手法等の習得を目的とする。どのように財務諸表は公表され、作成されているのか、財務諸表はどのように読むのか、分析するのか、を学ぶ。 <学習目標> ① 主要な財務諸表の種類・様式と簿記の仕訳を説明できる。 ② 財務諸表の入手方法、財務諸表を活用する経営分析の方法を説明できる。 ③ 一定の方法に基づいて経営分析を行うことができる。	
授業の進め方	第1回 社会福祉法人と会計基準 第2回 資金収支計算書 第3回 事業活動計算書の1 第4回 貸借対照表 第5回 簿記と仕訳 第6回 仕訳から決算までの簿記手続き 第7回 簿記の総合演習 第8回 仕訳から財務三表作成 第9回 経営分析に必要な財務諸表と経営分析資料 第10回 経営分析の方法の1 第11回 経営分析の方法の2 第12回 経営分析の事例分析の1 第13回 経営分析の事例分析の2 第14回 経営分析の事例分析の3 第15回 経営分析の事例分析の4	
事前学習の内容 学習上の注意	受講者は、講義と演習の繰り返しで学習するが、演習のために電卓等の計算器または表計算ソフト(エクセル)を準備して頂く。実際の財務諸表に基づいて経営分析等を行う演習が含まれているためである。	
本科目の 関連科目	経営分析論、経営管理概論、医療福祉経営論	
テキスト	講義時に必要な教材を配布する予定。	
参考文献	特に指定しない。	
成績評価 方法と基準	レポート(60点)、講義時の積極的質問・発言内容(40点)により評価し、総合評価60点以上を合格とする。	

科目名	スーパービジョン論	2 単位
担当者	山口 みほ・大谷 京子	
テーマ	ソーシャルワーク・スーパービジョンの理解と実践への応用	
科目のねらい	<キーワード> ソーシャルワーク・スーパービジョン、個人スーパービジョン、グループスーパービジョン、スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係性、スーパービジョンの倫理 <内容の要約> ①ソーシャルワーク・スーパービジョンについての基礎的理解を図る。スーパービジョンの教育的機能・支持的機能・管理的機能の具体的な展開について、実践的に学ぶ。 ②所属組織におけるソーシャルワーク専門職としての在り方を考える。 ③後進養成教育の過程におけるスーパービジョンの援助関係の特質や具体的な援助技術について明確化を図る。 <学習目標> ・ソーシャルワーク・スーパービジョンの理解を図り、自らの教育体験や現場体験を内省的に考察し、言語化することができる。 ・専門職としての後進育成に関する、新人研修・実習教育プログラム等の具体的な計画やマネジメントを遂行できる。	
授業の進め方	①内外の理論の学習と実践的なスーパービジョンの体験学習を有機的に組み合わせる。ソーシャルワーク・スーパービジョンの歴史的背景・倫理・諸過程・諸機能・援助関係・多面的効果等に関し、基礎的な理解を図る。積極的な自己学習と講義時の討議への活発な参加が期待される。 ②体験学習の方法として、ロールプレイやグループディスカッション等を豊富に活用する。スーパービジョンの理論と実践の統合への基礎的理解、内省的考察や気づきを導く方法への理解を深める。 第1回 オリエンテーション 第2回 スーパービジョンに関する理論 第3回 指導的立場の役割についての困難とスーパービジョンによる対処 第4回 スーパービジョンのセッション事例 第5回 スーパービジョンで活用されるスキル 第6回 新米スーパーバイザーが直面する困難とその対処 第7回 スーパーバイザーとしてスタートを切り、セッションを続けるための工夫 第8回 個別スーパービジョンの実践的理解（ロールプレイと振り返り） 第9回 個別スーパービジョンの実践的理解（ロールプレイと振り返り） 第10回 グループスーパービジョンの実践的理解（ロールプレイと振り返り） 第11回 グループスーパービジョンの実践的理解（ロールプレイと振り返り） 第12回 ナラティブの視点から『あたかも』事例検討会 第13回 ナラティブの視点から『あたかも』事例検討会 第14回 個別スーパービジョンの演習 第15回 全体の総括・まとめ	
事前学習の内容 学習上の注意	テキストにはあらかじめ目を通して、ソーシャルワークスーパービジョンについての基礎的理解をおさえておくこと。 実践レポートについて：本科目で実施した講義と演習を基に、受講者それぞれの現場でスーパービジョンを試行していただき、その内容について報告してください。（40 文字×40 行で 1600 字以内）	
本科目の 関連科目		
テキスト	大谷京子・山口みほ編著（2019）『スーパービジョンのはじめかた：これからバイザーになる人に必要なスキル』ミネルヴァ書房。	
参考文献	アルフレッド・カデュエシン（2016）『スーパービジョン イン ソーシャルワーク 第5版』中央法規出版。 一般社団法人日本社会福祉教育学校連盟（2015）『ソーシャルワーク・スーパービジョン論』中央法規出版。	
成績評価方法 と基準	ディスカッションへの参加度（40%）、実践報告レポート（60%）の方法で評価をおこない、全体で 60%以上を合格とする。	

科目名	福祉サービスマネジメント概論	2単位
担当者	篠田 道子	
テーマ	保健・医療・福祉サービスのマネジメント(管理・運営・人材育成)を考える	
科目のねらい	<キーワード> 保健・医療・福祉サービス、 マネジメント、 ミドルマネジャー、意思決定支援、多職種連携 地域包括ケアシステム、リスクマネジメント <内容の要約> 少子高齢化や情報化社会の進行とともに、福祉サービス、組織やチーム、リーダーシップのあり方が変化している。本講ではミドルマネジャーという視点から福祉サービスのマネジメント(管理・運営・経営)を考える。本科目における「福祉」とは、保健・医療・福祉・リハビリ・介護を包括した広義のものである。講義、ディスカッション、グループワーク、ワークショップなど複数の方法を組み合わせる。授業では様々な保健・医療・福祉サービスの場面にスポットを当て、自分がその場面の当事者であればどのように状況を理解し、そしてどのように意思決定し、組織やサービスを動かしていくのかを考える。授業は意思決定と思考訓練の場でもあり、理論的知識と実践的な知見の双方の向上を目指す。 また、わが国における福祉サービスを多面的かつ相対的に検討するため、国際比較も随時取り入れていく。 <学習目標> ・広義の福祉サービスのマネジメントを理解する。 ・意思決定と思考訓練を重ね、適切な解決策を見つけ、グループ内での合意を形成できる。	
授業の進め方	本講義は、隔週2コマ連続とする。 第 1・2 回 オリエンテーション、自己紹介、問題提起 多職種連携を高めるカンファレンス(ブレインストーミング、ケース教材による討論) 第 3・4 回 福祉サービスにおける組織変革(ケース教材による討論) 第 5・6 回 多職種で支える意思決定支援-終末期ケアに焦点を当てて- 第 7・8 回 地域包括ケアシステムとネットワーク形成(院生による事例提供と討論) 第 9・10 回 医療・福祉サービスの国際比較 第 11・12 回 高齢者施設における新型コロナのリスクマネジメント 第 13・14 回 静かなリーダーシップ(グループワーク+発表) 第 15 回 全体のまとめ ※都合により、授業の内容と順番を一部変更することがあります。	
事前学習の内容 学習上の注意	・事前に配布したケース教材を読み、課題シートに自分の考えをまとめ、グループワークで発言できるように準備しておくこと。 ・地域包括ケアシステムの概要、取り組み状況、評価等について、事前に調べておくこと。	
本科目の 関連科目	保健・医療・福祉サービス論	
テキスト	テキストは使用しない。レジュメ、ケース教材、実践報告書、雑誌論文、新聞記事など多様な教材を使う。	
参考文献	・篠田道子(2011)『多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル』(医学書院) ・篠田道子他編集(2018)『多職種で支える終末期ケア-医療・福祉連携の実践と研究』(中央法規) ・J.バダラツコ、高木晴夫監修(2010)『静かなリーダーシップ』(翔泳社)	
成績評価 方法と基準	最終レポート(50 点)、②平常点(50 点):コメントカード、事前課題、グループワークへの参加状況等で評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。最終レポート:テーマは、授業で扱う内容に関連するものを各自でテーマ設定する。A4版で 2000 字程度にまとめる。締め切りは 2023 年 7 月 29 日(土)までに、大学院事務室が指定する提出 BOX に提出すること(締め切り厳守)。	

科目名	医療福祉政策論	2 単位
担当者	李 忻	
テーマ	医療福祉制度・政策研究	
科目のねらい	<キーワード> 制度・政策の定義、医療保険制度、高齢者に関わる医療・福祉制度、介護保険制度 <内容の要約> 21 世紀初頭に日本は世界一の超高齢社会となった。それに伴い、国民医療費を筆頭に、医療・福祉分野での費用支出が増え続けている反面、多くの医療機関は経営難に直面している。国民皆保険の医療制度を維持しつつ、医療福祉システムの効率化がより一層求められている。 本講義ではまずは、基礎的な知識として医療・福祉や政策に関する専門用語の定義を学び、今日の日本の医療・福祉制度の基本的な枠組みや財政状況を理解する。その上で、数多くの 医療福祉制度・政策において、それぞれの制度・政策の構造的な課題について自ら分析、整理でき、かつ、自らこれらの制度・政策の課題を解決するための改革案を提案できる知識を習得する。 <学習目標> 社会保障制度の中の医療福祉制度について理解できる。 現役世代の医療保険制度が理解できる。 高齢世代に関わる医療保障制度が理解できる。 今日の医療福祉制度・政策の課題が理解できる。 医療福祉制度・政策の課題を解決するための改革案が提案できる。	
授業の進め方	第 1 回 制度・政策に関わる基礎知識の学習 第 2 回 日本の国民皆保険の歴史 第 3 回 日本の医療保険制度の枠組み 第 4 回 国民健康保険制度 第 5 回 被用者医療保険制度 第 6 回 近年の医療保険制度改革 第 7 回 後期高齢者医療制度 第 8 回 前期高齢者医療財政調整制度 第 9 回 高齢者医療制度を支える財政の仕組み 第 10 回 今日の医療保険制度の課題 第 11 回 介護保険制度の仕組み（1） 第 12 回 介護保険制度の仕組み（2） 第 13 回 介護保険制度の近年の制度改正 第 14 回 介護保険制度の財政構造と課題 第 15 回 医療福祉の連携と地域包括ケアシステム	
事前学習の内容 学習上の注意	○授業の討論に積極的に参加し、自らが意見を述べる際に根拠を示すこと ○授業の後、復習すること	
本科目の 関連科目	特に指定なし	
テキスト	なし （必要に応じて逐次指示・講義資料を配布する）	
参考文献	『医療政策論』（通信教育部指定教科書、日本福祉大学）	
成績評価方法 と基準	・講義でのディスカッションへの参加（40%）、期末レポート（60%）で成績判定を行う。 ・総合評価 60 点以上合格とする。	

科目名	経営管理概論	2単位
担当者	柳 在相	
テーマ	医療福祉の経営戦略とマネジメント	
科目のねらい	<キーワード> 戦略的意思決定、戦略策定の進め方、経営戦略の中核理論、戦略と組織の相互浸透、組織と成果のマネジメント <内容の要約> 本講義の狙いは、組織の存続および持続的成長に着目し、経営戦略の策定及び実行におけるマネジメントの役割が理解できるように努めることである。まずは経営戦略の中核理論について体系的に理解を進めた上で、組織の本質や組織文化、戦略的組織などについて検討する。そして、イノベーションの構図やパターン、変革のリーダーシップなどについての知識を吸収した上で、現実の事例をとりあげ、ケース・スタディをおこなうことにする。 <学習目標> ＊医療・福祉マネジメントに関わる基礎的諸概念の応用例を示すことができる。 ＊医療・福祉組織におけるマネジメント及び多色種連携の意義を把握できる。 ＊自らの考えを明確かつ論理的に組み立てて他者に説明し、意見交換できる。 ＊基本的人権擁護の意義や個人情報保護の必要性などを説明できる。	
授業の進め方	第 1 回 経済とは何か 第 2 回 マネジメントとは何か(経営組織としての使命と役割) 第 3 回 「クロズド組織(管理論)」から「オープン組織(戦略論)」へ 第 4 回 医療福祉のための経営戦略(1) 第 5 回 医療福祉のための経営戦略(2) 第 6 回 医療福祉のための経営戦略(3) 第 7 回 医療福祉のための経営戦略(4) 第 8 回 組織マネジメントの基礎 第 9 回 人のマネジメントとリーダーシップ 第 10 回 組織文化とマネジメント 第 11 回 経営戦略としてのイノベーション 第 12 回 医療福祉のイノベーション(ライブケース) 第 13 回 医療福祉のためのイノベーション(1) 第 14 回 医療福祉のためのイノベーション(2) 第 15 回 医療福祉の経営戦略と組織マネジメント(まとめの講義)	
事前学習の内容 学習上の注意	○テキスト「経営学総論」について事前に予習すること。 ○次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。 ○毎回授業では、まず担当者から報告をしてもらった上で、ディスカッションを行うので、積極的な姿勢で臨むこと。 ○授業終了時に、次回の範囲と担当者を確認し、資料や論文を配布する場合は読んでおくこと。 ○やむを得ない事由などにより欠席する場合には、講義のZoom記録を聴取した上で、レポート提出で対応することを認める。	
本科目の 関連科目	医療福祉経営論, 医療福祉政策論, 人材マネジメント論, マーケティング論	
テキスト	拙著『経営学総論』白桃書房、2020	
参考文献	拙著『ベンチャー企業の経営戦略』中央経済社、2003 拙著『JA イノベーションへの挑戦～非営利組織のイノベーション』白桃書房、2009	
成績評価 方法と基準	担当の小レポート及び期末レポート(60%)、ディスカッションへの参加度(40%)の方法で評価をおこなう、全体で60%以上を合格とする。	

科目名	プログラム評価論	2単位
担当者	横山 由香里	
テーマ	実践や介入プログラムの課題や効果等を科学的に評価する方法を学ぶ	
科目のねらい	<キーワード> 1. エビデンス 2. プロセス評価 3. アウトカム評価 4. バイアス 5. ロジックモデル <内容の要約> 近年、社会福祉や保健医療の実践が効果的に行われているかを検証することが求められています。本講義では、実践の経過や実践後の成果・課題等の評価方法を学び研究のリテラシーを高めます。 <学習目標> ・社会福祉や保健医療の領域で行われている取り組み(介入や実践)の効果等に関する文献を、読解できる ・取り組み(介入や実践)を評価する上で重要な視点を理解できる ・科学的な視点で、自身の問題意識や関心に迫るために必要な情報を収集、分析、記述できる ・様々な視点から検討することや個人情報保護の重要性を理解して研究を計画できる	
授業の進め方	第1回 ガイダンス 第2回 エビデンスとは 第3回 代表的な社会福祉調査法 第4回 介入や実践の「効果」とは 第5回 プログラムを開始する前のアセスメント・ロジックモデル 第6回 「効果」を評価する方法① 第7回 実際の文献に学ぶ 第8回 バイアスとは 第9回 「効果」を評価する方法② 第10回 プロセス評価とは 第11回 アウトカム評価とは① 第12回 アウトカム評価とは② 第13回 実際の文献に学ぶ 第14回 様々なプログラム評価 第15回 まとめ ・取り上げる文献は受講者の専門分野に合わせて決めます。 ・進度の都合で授業の順番を変更する可能性があります。	
事前学習の内容 学習上の注意	論文を事前配布した場合には、各自で目を通しておくことを推奨します	
本科目の 関連科目	研究方法概論	
テキスト	特になし	
参考文献	「プログラム評価 対人・コミュニティ援助の質を高めるために」安田節之著、新曜社(2011) / 「プログラム評価の理論と方法 -システムティックな対人サービス・政策評価の実践ガイド」P. H. ロッシ・M. W. リブセイ・H. E. フリーマン 著、大島巖・平岡公一・森俊夫・元永拓郎 監訳、日本評論社(2005)	
成績評価 方法と基準	レポートの提出(50%)、ディスカッションへの参加(50%)により、総合的に評価する。全体で60%以上を合格とする。	

科目名	ソーシャルワーク論	2単位
担当者	田中 千枝子(非常勤教員)	
テーマ	ソーシャルワークを理論や方法論として、事例検討やロールプレイなどの実践を通じて理解する	
科目のねらい	<キーワード> ①ソーシャルワーク ②実践理論 ③社会福祉方法論 ④ミクロ・メゾ・マクロ実践 ⑤ 専門性 <内容の要約> ソーシャルワーク実践の基盤となる考え方や方法を示すソーシャルワーク実践理論やアプローチの基本的知識と支援観(倫理観)を得ることによって、とくにミクロからメゾレベルの領域のソーシャルワークの専門性の確認を行う。また実践事例を分析し、グループワークにより、コミュニケーションをはかる体験をすることで、ソーシャルワークの価値にもとづく知識・技術を検証し、さらにそれらを専門家のコンピテンスとして身につけるための集団学習およびセルフワークによる学修を行う。 方法としては、実際の事例に対して様々な教育手法により実践理論・アプローチを適用し、参加型授業によって、個人・集団・地域の一定の視点からの多様な事例の事実を観察し、理解し、分析・解釈し、評価するといった段階を経て、ソーシャルワーク実践の一連の流れを体験する。 <学習目標> 人の人生/生活に着目し、社会的枠組みにおいて福祉的課題を設定し、その科学的視点を身に着けることによって、ソーシャルワークの実践方法を理解し、組織・地域・制度に対して働きかけることができる。ソーシャルワーク理論や展開過程を問題解決に応用する能力として技能や表現を身につけ、多職種に対するコミュニケーションやプレゼンテーション等のマネジメントに役立てることができる。	
授業の進め方	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 SWの実践理論概論講義 第 3 回 援助観価値観の理論的変遷、事例による討論 第 4 回 統合理論の流れ概観、事例検討 第 5 回 バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、ロールプレイ 第 6 回 エコシステム理論と時間・空間 エコマップとタイムライン作成 第 7 回 ピンカスミナハンの4つのシステム論、多職種連携によるエコマップ作成 組織・地域 第 8 回 GWに関する基礎理論概観、チームアプローチ協働の型 ロールプレイ 第 9 回 グループ力動論、司会の技術 事例検討、ロールプレイ KJ 法によるグループワーク 第 10回 グループワークのロールプレイ 課題に対するプレゼンテーション 第 11回 場の理論、地域福祉と評価手法 第 12回 エンパワメントエバリュエーション法、ワークショップのロールプレイ 第 13回 ソーシャルワークリサーチ、社会調査、介入計画作成 第 14回 ミクロ・メゾ・マクロに展開するソーシャルワークとマネジメント レポート 第 15回 グループ発表 まとめ レポート作成	
事前学習の内容 学習上の注意	○指定したテキストや資料や課題を事前に読んで学習し考えておくこと。 ○ディスカッションやロールプレイなど演習形式を多用するので、積極的に参加すること。 ○毎回授業の最初に前回授業内容に係る振り返りを実施するので、復習しておくこと。 ○毎回の授業終了時に、次回の資料や論文を配布するので読んでおくこと。 ○社会福祉学での基礎的な理論に関する知識を確認しつつ講義する。	
本科目の 関連科目	医療・福祉マネジメント研究科「専門演習Ⅰ・Ⅱ」の考え方や論文作成の枠組み作成に寄与することができる。なお本科目は「認定社会福祉士」の資格対象科目として認定されている。	
テキスト	なし そのつど資料・レジメ・録画等の提示をおこなう	
参考文献	渡部律子 「福祉専門職のための統合的・多面的アセスメント」 ミネルヴァ書房 (2020) 「ソーシャルワークとは何か」 川島書店 Zブトゥリム その他 授業中に提示	
成績評価 方法と基準	授業2限に1回ごとのセルフワークによる課題の提出(20%) ディスカッション・ロールプレイへの参加度(20%)、 1日ごと課題レポート3回提出(60%)の方法で評価をおこない、全体で60%以上を合格とする	

科目名	研究方法概論	2単位
担当者	末盛 慶	
テーマ	研究を行う上で必要となる調査方法について理解を深める。	
科目のねらい	<キーワード> 研究方法 質的方法 量的方法 研究課題 仮説 <内容の要約> 本講義では、研究を行う上で必要となる研究方法を学ぶ。質的方法と量的方法の双方を扱う。質的方法に関しては、質的方法の特徴、質的研究における研究課題の定め方、データ収集の仕方、質的データの分析方法、質的分析の結果の示し方について解説する。量的方法に関しては、調査デザインの作成、質問紙の作り方、対象者の抽出方法、調査の実施方法、データの作成と分析方法を学ぶ。SPSSを用いた分析演習も複数回行う(※一部の回を一般公開する場合があります)。 <学習目標> ①質的および量的方法の概要を理解する。②質的および量的データのとり方を理解する、③質的および量的データの分析の仕方を理解する。	
授業の進め方	第1回 研究方法－質的方法と量的方法 第2回 質的方法の概要 第3回 質的データの取り方Ⅰ－インタビュー調査を中心に 第4回 質的データの取り方Ⅱ－観察法・エスノグラフィー 第5回 質的データの分析法Ⅰ－グラウンデッド・セオリー・アプローチ 第6回 質的データの分析法Ⅱ－修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ 第7回 質的データ分析の結果の示し方 第8回 量的方法の概要 第9回 質問紙の作成・配布・回収 第10回 データ入力と基本集計 第11回 SPSSを用いた量的分析Ⅰ－単純集計と変数の再構成の仕方 第12回 SPSSを用いた量的分析Ⅱ－クロス集計とカイニ乗検定 第13回 SPSSを用いた量的分析Ⅲ－平均値の比較に関する分析 第14回 SPSSを用いた量的分析Ⅳ－相関分析と回帰分析 第15回 混合研究法	
事前学習の内容 学習上の注意	以下の参考文献のうち、中島洋『初学者のための質的研究 26 の教え』と、須藤康介・古市憲寿他『新版文系でもわかる統計分析』を読みながら、本講義を受講すること。	
本科目の 関連科目	私の研究テーマと研究方法	
テキスト	テキストは用いません。毎回レジュメを配布し、講義と演習を行います。	
参考文献	岩田正美・中谷陽明他『社会福祉研究法』有斐閣 2006 年 木下康仁『ライブ講義 M-GTA』弘文堂 2007 年 グラハム・R・ギブズ『質的データの分析』新曜社 2017 年 向後千春・富永敦子『統計学がわかる』技術評論社 2007 年 戈木クレイグ・ヒル滋子『質的研究方法ゼミナール(増補版)』医学書院 2008 年 佐藤郁哉『質的データ分析法』新曜社 2008 年 須藤康介・古市憲寿・本田由紀『新版文系でもわかる統計分析』朝日新聞出版 2018 年 高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書 1979 年 中島洋『初学者のための質的研究 26 の教え』医学書院 パンチ,K.F.『社会調査入門:量的調査と質的調査の活用』慶応義塾大学出版会 2005 年 村瀬 洋一・高田 洋他『SPSSによる多変量解析』オーム社 2007 年	
成績評価 方法と基準	期末レポート(50 点)、授業内容に関する受講生のコメント・毎回提出(50 点)により評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。	

科目名	福祉産業論	2単位
担当者	後藤 芳一(非常勤教員)	
テーマ	修士論文を作成に必要な基本的な研究の方法論(枠組、研究・論文の必要条件、技法など)を学ぶ。産業を分析するために必要な経営の基本的事項(例:戦略、マネジメント)の理論と実践力を学ぶ。講義は演習を中心に行い、福祉用具産業などに触れる。	
科目のねらい	<キーワード> 論文の枠組、課題の構造化、経営戦略、企画立案とマネジメント、福祉産業 <内容の要約> 修士論文の作成に必要な基礎学力(例:研究の意義、論文の枠組、研究・論文であるための要件、技法(課題発見と構造化、論理と分析、文章、図表))と、将来、本格的な研究をめざす際に必要な姿勢の修得をめざす。 合わせて、産業を理解するために必要な経営の基本的事項(例:市場、戦略、事業モデル、マネジメント、マーケティング、組織、経営分析)を学ぶ。戦略やマネジメントの知見は、研究を行う力としても寄与することをめざす。 <学習目標> 医療・福祉マネジメントの基礎的概念を理解して応用例を示すとともに、意義を事例と共に示すことができる。 論文執筆に必要な研究の方法論を理解できる。自らの考えを論理的に組み立てて他者に説明し意見交換できる。	
授業の進め方	第1回 講義の目的(研究の目的と意義、マネジメント理論の研究への活用) (()内の前半は医療福祉の研究に関わること、後半は経営やマネジメント関係(以下同じ)) 第2回 枠組の俯瞰(医療福祉事業の形態、公共と営利・効率と公正) 第3回 理論と歴史(量的・質的研究、マネジメント理論の発展) 第4回 社会の動向(社会保障への要請、成熟社会と持続性) 第5回 福祉と産業(産業の医療福祉における役割、競争とポジショニング) 第6回 資源の管理(研究資源と組合せ、分析の基本的技法) 第7回 課題の設定(研究の範囲と階層、スコープと体系図) 第8回 対策の立案(研究方針の選択、経営資源の統合と代替案の比較) 第9回 分析と評価(研究資源と組合せ、経営の分析法と統計) 第10回 運営と管理(研究の工程管理、マーケティング・ミックスとプロジェクトマネジメント) 第11回 意思決定論(代替案の立案、意思決定(感度分析ほか)) 第12回 組織と体制(研究とキャリアパス、動機づけ・リーダーシップと組織) 第13回 論文の文章(論理と文章、縮約) 第14回 事例と演習(研究論文、事業モデル) 第15回 講義の総括(研究・論文とマネジメントの関わり) (演習を中心とするので、上の内容を盛り込みつつ、順序は変更することがある)	
事前学習の内容 学習上の注意	・講義では、発言や発表を歓迎し重視する。 ・発言や発表の内容は、毎回講義の前や講義中に出題する演習課題、自身の研究の進捗、その他公私の活動などを期待する。 ・上記の発表は基本的に任意なので、積極的な姿勢で講義に参加する事が望ましい。 ・テキストを、指定する講義回までに読んでおくこと。	
本科目の 関連科目	研究方法概論、医療福祉経営論、医療福祉経済論、保健・医療・福祉サービス論、経営管理概論	
テキスト	後藤芳一・星川安之(2011)『共用品という思想』岩波書店 後 正武(2001)『意思決定のための「分析の技術」』ダイヤモンド社 ほか、毎回、資料を配付	
参考文献	* 鷲田小彌太『入門・論文の書き方』PHP新書, 1999 * 清水幾太郎『論文の書き方』岩波新書, 1959 * 大野 晋『日本語練習帳』岩波新書, 1999 * 石村貞夫『入門はじめての統計解析』東京図書, 2006 * 谷岡一郎『「社会調査」のウソ』文春新書, 2000	
成績評価 方法と基準	演習(30点)、課題発表(30点)、レポート(20点)、講義への寄与(20点)により評価し、総合評価60点以上を合格とする	

科目名	福祉サービスマネジメント特講Ⅰ	2 単位
担当者	山内 哲也（非常勤教員）	
テーマ	福祉の実践事例から福祉サービスマネジメントを学ぶ	
科目のねらい	<キーワード> ピアスーパービジョン、福祉マネジメント、コミュニティケア、アクションリサーチ、 <内容の要約> 本講は、広義の福祉現場で複雑化が進む各種事例の問題解決や福祉資源・地域づくりにあたり「有限な資源で最大限の成果を生み出す『やりくり』」および施設・事業所の経営も成り立たせる福祉マネジメントの課題と方法を学ぶことを目的とします。 そのため大学院と福祉現場の連携機能を活かし、各領域の実践家による実践報告、担当教員の講義などから総合的に学ぶ教育方法をとります。 本講は土曜日午後に開講し、平日多忙な人や遠隔地の人も参加しやすい配慮をします。 また、広く市民も受講できるよう一般公開します。 <学習目標> ・福祉資源・地域づくりに必要な「有限な資源で最大限の成果を生み出す『やりくり』」について学び、実践力を高めることができる。 ・自分自身の問題意識、関心にひきつけ、他の実践事例から有効な実践・思考フレームを構築して応用できる。	
授業の 進め方	5月20日（土）	
	1 限 13:25-14:55 2 限 15:05-16:35 3 限 16:45-18:15	地域包括ケアに求められる多職種連携教育 一人ひとりの「居場所づくり」 ピアスーパービジョン 討論と担当教員のまとめ 宇佐美千鶴 火口 弥生 山内 哲也
	6月24日（土）	
	1 限 13:25-14:55 2 限 15:05-16:35 3 限 16:45-18:15	居住の貧困をどのように支えるか 都市型複合施設の地域貢献活動 ～地域に社会資源を開発～ ピアスーパービジョン 討論と担当教員のまとめ 新名 雅樹 野村 美奈 山内 哲也
	8月26日（土）	
	1 限 13:25-14:55 2 限 15:05-16:35 3 限 16:45-18:15	地域包括ケアにおける社会福祉士・ケアマネの役割 対人援助者の「小さな」起業～その実践と展開を振り返る～ ピアスーパービジョン 討論と担当教員のまとめ 近藤 芳江 原田 亘 山内 哲也
	10月28日（土）	
	1 限 13:25-14:55 2 限 15:05-16:35 3 限 16:45-18:15	災害福祉と地域共生の街づくり 健康のあり様をめぐる ～医療福祉生協の実践～ ピアスーパービジョン 討論と担当教員のまとめ 佐々木 薫 片山 忍 山内 哲也
	11月18日（土）	
	1 限 13:25-14:55 2 限 15:05-16:35 3 限 16:45-18:15	医療福祉のリスク・クライシスマネジメント 社会福祉施設における HIV 陽性者の受入れ課題と対策 ピアスーパービジョン 討論と担当教員のまとめ 天野 敬子 山内 哲也 山内 哲也
事前学習の内容学習上の注意	指定した参考図書は事前に読んでおくといいです。	
本科目の関連科目	福祉サービスマネジメント概論	
テキスト	テキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。	
参考文献	非営利組織の経営 PF ドラッガー ダイアモンド社 ソーシャルワーク 事例研究の理論と実際 野口定久 他 中央法規 社会福祉・介護福祉の質的研究法 田中千枝子他 中央法規	
成績評価方法と基準	毎回の小レポート 50 点、最終レポート 50 点で 100 点満点。60 点以上を合格とします。	

科目名	地域福祉論(隔年開講科目、2023 年度開講)	2単位
担当者	川島 ゆり子	
テーマ	包括的支援体制と地域福祉	
科目のねらい	<キーワード> コミュニティワーク、福祉コミュニティ、コミュニティソーシャルワーク、社会参加、コミュニティケア <内容の要約> 住み慣れた地域で誰もが安心して暮らし続けることを支えるためには、人の暮らしづらさに寄り添い地域生活課題の解決をめざしていく個別支援と、人の暮らしの基盤となる地域づくりを連動させていく必要がある。また地域福祉を推進する実践者は、これらの地域を基盤とする社会福祉援助技術の理解だけではなく、それらの支援を地域の中でシステムとして運営していくための制度政策のプランニング・運営への理解も深めていくことが求められている。個別支援の理念としての「ケア倫理」、個別支援と地域支援を連動させる援助技術としての「コミュニティソーシャルワーク」、地域福祉の今日的な制度政策の基盤としての「包括的支援体制」。この3つを講義の中核とし実践面と政策面の双方から地域福祉へのアプローチを試みる。 <学習目標> ①地域福祉の理論・政策・実践・技術を体系的に学ぶことができる。 ②地域福祉計画の策定および推進方法を具体的に学ぶことができる。 ③コミュニティソーシャルワークの実践および人材養成のあり方について学ぶことができる ④制度のはざまに陥るような社会的孤立の状況にあるケースについて、アセスメントからプランニングまでを事例に基づき検討することができる。 ⑤重層的支援体制整備事業の実施および、地域福祉計画策定の具体的な事例を学ぶことができる。 ⑥コミュニティケアの価値・理念について学ぶことができる	
授業の進め方	1講 社会的孤立と地域福祉 2講 地域福祉の理論と構成 3講 コミュニティソーシャルワークのプロセスと総合相談への展開 4講 個別支援のネットワーク化、機関連携とソーシャル・キャピタル 5講 個別課題の普遍化と福祉文化の醸成 6講 ソーシャルアクションと資源開発 7講 地域アセスメントの視点と手法(量的調査・質的調査) 8講 ボランティア活動 その理念と意義 9講 地域福祉の人材養成の実践 10講 包括的支援体制整備に向けた政策的動向 11講 地域福祉計画の策定プロセスとその課題 12講 社会福祉協議会の組織の歴史と運営 13講 社会福祉法人の社会貢献 NPO 法人の地域活動 14講 参加支援と地域づくり 重層的支援体制事業の相互関連性 15講 コミュニティケアとケアの倫理	
事前学習の内容 学習上の注意	この講義は、パワーポイントを用いた講師による情報伝達と、参加者によるディスカッションの双方向により構成されます。テーマごとに事前にテーマに関する情報を書籍や自分自身の実践現場である地域の情報から収集し、自分自身の地域でどのように展開していくかということを意思するようにしてください。	
本科目の 関連科目	私の研究テーマと方法 社会福祉政策論 プログラム評価論	
テキスト	川島ゆり子他『地域福祉論』ミネルヴァ書房 2017 年	
参考文献	川島ゆり子『地域を基盤としたソーシャルワークの展開』ミネルヴァ書房 2014 年	
成績評価 方法と基準	中間レポート2回(10 点 A4×1 枚)、最終レポート(50 点×1 回 A4×3 枚)、講義・演習等での発言など出席の姿勢(30 点)により評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。	

科目名	医療福祉経営論	2 単位
担当者	若山雅博	
テーマ	医療福祉経営の基本的視座	
科目のねらい	<キーワード> 医療福祉サービスの特性とマーケティング 医療福祉専門職と専門職組織、組織マネジメント ダイバーシティ・マネジメント <内容の要約> 医療福祉を取り巻く経営環境は今や激動期を迎えている。医療・介護保険財政の逼迫や財政構造改革の中での福祉予算の削減などが医療福祉経営に大きな影を落としつつある。サービスの提供側も経営の効率化を一層求められている。 しかし、医療福祉経営には多くの特性があり、企業の経営理論をそのまま適用して経営改革を行おうとしても多くの困難がある。加えて、少子高齢化の影響により、医療福祉（介護）人材不足が深刻度を増すばかりである。今後、医療福祉は人材マネジメントが経営の中核となる。そのため本講義では医療福祉経営を研究しようとする人々のために基本的な視座を提供する。 <学習目標> 医療福祉経営の基本的視座を理解することができる。 文献を批判的に検討できる。 プレゼン能力やコミュニケーション能力を身につけることができる。	
授業の進め方	本講義は毎週開講とする。 第 1 回 オリエンテーション ← 報告分担を決定 第 2 回 ヘルスケア・サービスの特性（ヘルスケア・マネジメント：第 1 章） 第 3 回 ヘルスケア・サービスの顧客とサービスの構造（ヘルスケア・マネジメント：第 2 章） 第 4 回 ヘルスケア・サービスの交換過程（ヘルスケア・マネジメント：第 3 章） 第 5 回 ヘルスケア専門職（ヘルスケア・マネジメント：第 4 章） 第 6 回 ヘルスケア組織（ヘルスケア・マネジメント：第 5 章） 第 7 回 人と組織のマネジメント（ヘルスケア・マネジメント：第 6 章） 第 8 回 ヘルスケア・サービスの供給制度（ヘルスケア・マネジメント：第 7 章） 第 9 回 医療保険制度と診療報酬（ヘルスケア・マネジメント：第 8 章） 第 10 回 多様な人材のマネジメント～ダイバーシティ経営とは何か？～ 第 11 回 多様な人材のマネジメント～ダイバーシティがもたらす成果とそのメカニズム～ 第 12 回 多様な人材のマネジメント～ダイバーシティ経営に適合的な人事管理システム～ 第 13 回 多様な人材のマネジメント～ダイバーシティ経営の土台としての働き方改革と「境界管理」～ 第 14 回 多様な人材のマネジメント～従業員の自律的なキャリア形成支援～ 第 15 回 多様な人材のマネジメント～欧州企業のダイバーシティ経営：人事管理制度と管理職のマネジメント～	
事前学習の内容・学習上の注意	履修者は指定された文献とそれに関わる参考文献を読んだうえで、報告用のレジュメ（報告担当者は A3 用紙一枚、他の参加者は A4 用紙一枚）を作成して参加する。レジュメの作成方法は第 1 回のオリエンテーションで説明する。 経営学、社会学、政治学の基礎的な知識の修得と理解を深める。	
科目の関連科目	医療福祉政策論	
テキスト	基本テキストとして以下を使用する。 ①中島明彦『ヘルスケア・マネジメントー医療福祉経営の基本的視座(第 2 版)』同友館, 2009 年。 ②佐藤博樹・武石恵美子・坂爪洋美『多様な人材のマネジメント』中央経済社, 2022 年	
参考文献		
成績評価方法と基準	報告内容とディスカッションへの参加で評価する。報告用レジュメの提出と発表（60 点）、ディスカッションへの参加（40 点）により合計 60 点以上を合格とする。	

科目名	医療福祉経済論	2単位
担当者	二木 立(非常勤教員)	
テーマ	医療・福祉の経済分析と政策研究の基礎	
科目のねらい	<キーワード> 医療経済学、医療政策研究、全世代型社会保障 <内容の要約> 本講義は院生が医療・福祉の経済分析の基礎知識・考え方を身につけることを目的としている。そのために、医療経済学の基礎(医療の経済的特性、医療の経済分析の手法等)とその応用(医療・福祉サービスと政策の経済的分析)を、主に私の著作や論文を用いて、経済学の基礎知識がない院生も理解可能なように、分かりやすく、具体例を交えて講義する。講義では、私の研究の結果だけでなく、テキストや論文に詳しくは書いていない、私が研究を始めた動機や研究途中の失敗談、研究ノウハウ等も紹介する。 <学習目標> ①医療・福祉に関する経済分析と政策研究の基礎的知識・考え方を理解する。 ②講義とレポート添削により、論文読解と論文執筆に必要な研究方法論を身につけることができる。 ③後半(第8～14回の7回)はゼミ形式で行うことにより、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につけることができる。	
授業の進め方	第1回 オリエンテーション、「医療経済学の将来」と研究者の政策形成への寄与 第2回 医療・介護サービスの経済的特性 第3回 医療・介護サービスの経済的特性(続き) 第4回 国民皆保険制度の社会経済的分析 第5回 医療効率と費用効果分析ー地域・在宅ケアを中心として 第6回 医療技術と医療費への影響 第7回 特講:私の最新の研究テーマのうち、履修者・聴講者の一番希望の多いものを話す ※第8、9回はテキスト(2)を、第10～14回はテキスト(3)を用い「ゼミ形式」で行う(毎回受講者の1人がテキストの該当章について文書で報告し、討論) 第8回 医療政策の分析枠組み、医療政策の将来予測の視点と方法 第9回 私の医療経済・政策学研究の視点と方法、資料整理の技法 第10回 コロナ危機後の医療提供体制 第11回 安倍・菅・岸田内閣の医療・社会保障改革 第12回 全世代型社会保障改革の批判的検討 第13回 社会保障・社会福祉の理念と社会的処方 第14回 医療経済・政策学の論点 第15回 レポート返却・講評、質疑応答	
事前学習の内容 学習上の注意	○毎回の授業前に、『講義資料集』とテキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。 ○毎回授業の最後10分間に質問を受け付けるので、聞き逃したことやもっと詳しく聞きたいことを積極的に出すこと。 ○講義開始前の30分間を「オフィスパワー」とし、質問・相談を受け付ける(予約不要)。	
テキスト	(1)「2023年度『医療・福祉経済論』講義資料集」(第1～6回講義の資料を収録。開講時配布)。 (2)二木立『医療経済・政策学の視点と研究方法』勁草書房,2006。 (3)二木立『20年代初頭の医療・社会保障』勁草書房,2022, (2)・(3)は各自、事前に購入する:(2)は品切れなので、書店または勁草書房に直接「オンデマンド出版」を注文するか、Amazon等で古書を購入する。	
参考文献	二木立『保健・医療・福祉複合体』医学書院,1998。 二木立『介護保険制度の総合的研究』勁草書房,2007。 二木立『地域包括ケアと地域医療連携』勁草書房,2015。 二木立『地域包括ケアと福祉改革』勁草書房,2017。 二木立『地域包括ケアと医療・ソーシャルワーク』勁草書房,2019。 二木立『コロナ危機後の医療・社会保障改革』勁草書房,2020。 二木立『医療経済・政策学の探究』勁草書房,2018。	
成績評価 方法と基準	2つのレポート(50点満点)と筆記試験(50点満点)を総合して評価する。 ゼミ形式で行う第8～14回の報告者は20点加算。 レポートは第14回講義前にメールで私宛提出する。提出されたレポートは個別に添削・評価し、第15回講義前にメールで返却し、講評と質疑応答を行う。	

科目名	精神保健福祉論(隔年開講科目、2023 年度開講)	2単位
担当者	大谷 京子	
テーマ	精神保健福祉領域における実践、現状と課題	
科目のねらい	<キーワード> 精神保健福祉、 ソーシャルワーク、 地域生活支援、 実践理論、 障害者福祉の理念 <内容の要約> 精神障害が日本の歴史の中でいかに扱われてきたかを概観し、それが現状にどのような影響を落としているかを学ぶ。またソーシャルワーク実践の基礎となる理念、理論についても議論する。その上で、精神障害者の不利益を知り、生活支援のあり方を検討する。 事例を題材としながら、精神障害者に対するサポートの現状と課題を検討したい。 <学習目標> ①日本の精神保健福祉の現状と課題を説明できる。 ②障害の概念・障害者福祉の基本理念を理解する。 ③精神保健福祉に関連するテーマについて、議論し、まとめ、プレゼンテーションできる。	
授業の進め方	第1回 オリエンテーション / 第2回 精神障害者の生活実態 第3回 精神障害者家族の置かれている状況 第4回 障害概念の変遷 1 / 第5回 障害概念の変遷 2 第6回 障害の社会モデルの考え方 / 第7回 精神障害者の権利擁護 第8回 ソーシャルワーク実践が依拠する理念と理論 第9回 エンパワメントとパターナリズム 第10回 チームアプローチ 第11回 精神障害者地域生活支援の事例検討 第12回 地域精神保健福祉活動の方法 第13-14回 受講者によるプレゼンテーションおよびディスカッション 第15回 まとめ	
事前学習の内容 学習上の注意	☐ プレゼンテーションについて 後半の授業で、精神保健福祉の現状と課題について、グループで 10 分程度のプレゼンテーションをしていただきます。たとえば「いかに効果的にチームアプローチを展開できるか」、「精神障害者に対する偏見をなくすためには」など、テーマは自由です。2 時間ほど、グループでの検討時間を授業時間内に提供しますが、それだけでは足りませんので、授業時間外での準備が必要になります。 ☐ 初回授業の時に、あらかじめ参考文献の中から 1 冊を読んでレポートを提出してください。 日本の精神保健福祉がたどった特殊な歴史と現状を踏まえ、その原因は何かについて考察してください。タイトルは自由です。A4 用紙に 40 文字×40 行で 1600 文字以内です。	
本科目の 関連科目		
テキスト	テキストは利用せず、プリントなど資料を用意する。	
参考文献	芹沢一也(2005)『狂気と犯罪 なぜ日本は世界一の精神病国家になったのか』講談社。 岡崎伸郎(2020)『精神保健医療のゆくえ—制度とその周辺』日本評論社。 大熊一夫(2009)『精神病院を捨てたイタリア捨てない日本』岩波書店。 ヒーザー・スチュアート(2015)『パラダイム・ロスト』中央法規出版。	
成績評価 方法と基準	レポート(40%)、プレゼンテーション(30%)、コメントカードの提示(30%)によって評価をおこない、全体で60%以上を合格とする。	

科目名	保健・医療・福祉サービス論	2 単位
担当者	近藤 克則（非常勤教員）・渡邊 良太（非常勤教員）	
テーマ	保健・医療・福祉のマネジメント課題の全体像を学び、実践と研究に活かす	
科目のねらい	<キーワード> 保健・医療・福祉 マネジメント・サイクル ミッション、ビジョン、ゴール 多職種協働 (interprofessional collaboration) 健康の社会的決定要因 (social determinants of health) <内容の要約> 日本はいまや高齢人口割合が世界一多い国である。保健・医療・福祉サービスのいずれかを必要とする高齢者は、同時に他のサービスも必要とする。いずれかの分野で働く者は、保健・医療・福祉サービスの全体を学ばねばならない。質の高いサービスを提供するには、ミクロ（臨床）レベルの技術だけでなく、それを支えるチーム・組織、システム、政策に至るすべてのレベルにおけるマネジメントが影響する。 本講義では、保健・医療・福祉職に必要なミクロ（臨床）レベルの QOL (quality of life) やケア・マネジメントから、メゾ（チーム・事業所）レベルのマネジメント、マクロ（政策）レベルの医療・介護・社会政策的マネジメントまで取り上げて論じる。 保健医療福祉サービスの特性・固有性と、レベルや領域を超える「マネジメント」の普遍性の両面から、その基礎的な概念を学ぶ。 <学習目標> 保健・医療・福祉の各場面におけるマネジメントの必要性を理解する。 現場の課題をミクロ、メゾ、マクロの各視点から説明できる。 現場の課題に種々のマネジメント手法を応用することができる。 現場の課題の社会的・制度的背景を理解し、現場のマネジメントに役立てられる。 多職種協働の必要性、困難性、実現可能性を説明できる。	
授業の進め方	第1回 オリエンテーションー保健・医療・福祉サービスマネジメント総論（渡邊） 第2回 QOLを捉える枠組み（渡邊） 第3回 ケアマネジメント（1）（渡邊） 第4回 ケアマネジメント（2）（渡邊） 第5回 健康行動を促す戦略（渡邊） 第6回 チーム・組織のマネジメント（1）（渡邊） 第7回 チーム・組織のマネジメント（2）（渡邊） 第8回 ケアの質のマネジメント研究（渡邊） 第9回 保健医療福祉の半世紀とNPM（近藤） 第10回 医療政策（近藤） 第11回 超高齢社会と福祉産業のmission・chance・risk（近藤） 第12回 高齢者医療介護の課題（近藤） 第13回 保健・介護予防政策のマネジメント（1）（近藤） 第14回 保健・介護予防政策のマネジメント（2）（近藤） 第15回 研究と教育のマネジメント（近藤） ・臨床→チーム・組織→政策の順に進める予定だが、講師の都合で順番が変更になる場合がある。 ・グループワークを取り入れる場合がある。	
事前学習の内容 学習上の注意	テキストの該当部分を予習すること。	
本科目の 関連科目	「ケースメソッド演習」	
テキスト	近藤克則著：「医療・福祉マネジメントー福祉社会開発に向けて 第3版」改訂版、ミネルヴァ書房，2017	
参考文献	近藤克則：「医療クライシス」を超えて-イギリスと日本の医療・介護のゆくえ。医学書院，2012 近藤克則：健康格差社会への処方箋。医学書院，2017 近藤克則：長生きできる町。角川新書，2018 近藤克則：研究の育て方-ゴールとプロセスの「見える化」。医学書院，2018 近藤克則：健康格差社会-何が心と社会を蝕むのか。医学書院，2022 奥原剛：実践 行動変容のためのヘルスコミュニケーションー人を動かす 10 原則一。大修館書店，2021	
成績評価方法 と基準	毎回、ミニ・レポート、感想、質問を出席カードまたは Web、メールで提出してもらいます。 レポートは 2000 文字から 3000 文字程度 (A4 版で 2 枚以内) .テーマは講義中に示します。〆切り 1 月 21 日、名古屋事務室が指定する提出 BOX に提出してください。 毎回の提出物(20 点)とレポート(80 点)の割合で評価します。	

科目名	心理統計法特論	2 単位
担当者	千賀則史	
テーマ	心理尺度の構成および相関研究の実践を通して、各種心理統計の技法を習得する	
科目のねらい	<キーワード> 記述統計、推測統計、心理尺度の構成、項目分析、相関研究 <内容の要約> 本特論では心理学研究の基礎的な統計手法について、実践を通して習得する。そのため、心理尺度を自身で作成し、この尺度によって測定される特性とパーソナリティの主要5因子との関係を調べる相関研究を実践する。まず記述統計と心理尺度の構成、および相関研究に関する基礎的な学習を行ない、質問紙を完成させる。その後各自で収集したデータをもとに、心理尺度の構成において求められる項目分析や因子分析、さらにパーソナリティとの相関研究などにより、各種の心理統計技法を学ぶ。解析は統計パッケージ（SPSS）を使用する。 <学習目標> ① 心理学研究に用いられる統計の基礎を理解することができる。 ② 各種統計手法を用いた心理データの分析を実施することができる。 ③ 心理尺度の構成を自身で行うことができる。	
授業の進め方	第1回 イン트로ダクション 第2回 記述統計と尺度構成の基礎 第3回 尺度項目の作成 第4回 相関研究の基礎 第5回 質問紙の作成 第6回 基本統計量の算出 第7回 推測統計の基礎 第8回 項目分析（I-T 相関）、信頼性分析 第9回 因子分析1 第10回 因子分析2 第11回 t 検定 第12回 分散分析 第13回 クロス集計とカイ二乗検定 第14回 その他の解析 第15回 まとめ	
事前学習の内容 学習上の注意	演習内容は知識やスキルを積み上げていく構成となっている。そこで各回各自で復習を行い、学習内容を習得していることを前提とする。また授業時間外にデータ収集など課題を課すことがある。なお、授業では統計解析パッケージ（SPSS）を使用する。受講生にはPC操作の基礎的技能が求められる。	
本科目の関連科目	心理学研究法特論	
テキスト	使用しない（レジュメを使用する）。	
参考文献	授業内で指示する。	
成績評価 方法と基準	課題レポート（30%）、演習への積極的参加度（30%）、最終レポート（40%）により評価を行い、全体で60%以上を合格とする。	

科目名	マーケティング論	2単位
担当者	小木 紀親(非常勤教員)	
テーマ	企業・医療・福祉・行政・地域・生活者などの視点から多面的にマーケティングをとらえる	
科目のねらい	<キーワード> マーケティング／医療・福祉のマーケティング／行政・地域のマーケティング／ケースメソッド <内容の要約> 本講義(講義形式)の目的は、マーケティング理論を習得するとともに、市場競争及び差別化の概念と、実際の企業及び非営利組織(医療・福祉・行政を含む)のマーケティング戦略の仕組みを多面的に理解していくことにある。具体的には、マーケティング戦略の4つの軸(製品、価格、流通チャネル、プロモーション)を中心として、関連論文、ケースメソッドなどを活用しながら、今日的な企業及び非営利組織(医療、福祉、行政など)のマーケティング活動や市場における多様なマーケティング現象を、批判的精神でもって理解・考察していく。また本講義では、医療・福祉マネジメントを強く意識し、各受講者の研究の方向性(フィードバックを含む)、ケースメソッド、ショートケースの作成なども行っていく。なお、毎回の講義においてフィードバック・ふりかえりを行う。 <学習目標> ・批判的精神を持ち、マーケティングの基礎と応用を理解することができる。 ・企業、医療・福祉、行政・地域等においてマーケティング的な考察ができる。 ・ケースメソッドにおける議論・作成などを行うことができる。 ・自身の問題意識や関心をまとめるために必要な情報を収集することができる。 ・医療・福祉マネジメントに関わる基礎的諸概念の応用例を示すことができる。	
授業の進め方	第1回 導入講義(マーケティングとは／批判的精神とマーケティング／評価方法) 第2回 現代マーケティングの潮流 第3回 マーケティングの基本体系 第4回 製品戦略／価格戦略 第5回 流通チャネル戦略／プロモーション戦略 第6回 医療・福祉のマーケティング 第7回 行政・地域のマーケティング 第8回 ソーシャルビジネス 第9回 国内外論文・文献の検討 第10回 ゲスト講義 第11回 ケースメソッド①(企業戦略) 第12回 ケースメソッド②(ソーシャルビジネス) 第13回 ショートケース構想発表 第14回 ショートケース構想に対してのディスカッション 第15回 総括及びフィードバック・ふりかえり	
事前学習の内容 学習上の注意	・事前学習として、先に配布する講義資料や論文を十分に予習すること。 ・次回以降の講義範囲を予習し、専門用語の意味などを理解しておくこと。 ・復習はもとより、毎講義後に課題がでるため、必ず事後学習をすること。	
本科目の 関連科目	医療福祉経営論、経営管理概論	
テキスト	講義中に適宜指示する。	
参考文献	小木紀親『マーケティング EYE【第5版】』中部経済新聞社、2020年。	
成績評価 方法及基準	授業内レポート(約35%)、授業内の貢献度・ディスカッションへの参加度・受講態度(約25%)、課題・ショートケースの作成(約40%)、その他、などから総合的に判断し、全体で60%以上を合格とする。	

科目名	ケアマネジメント論	2単位
担当者	上原 久(非常勤教員)	
テーマ	ケアマネジメントの理論と実際	
科目のねらい	<キーワード> 1. 多職種連携 2. ケアマネジメント 3. チームワーク <内容の要約> ケアマネジメントの概念、歴史、分類、適応、効果などの全体像を整理すると同時に、多職種が協同して事例理解を深める方法や連携の在り方について、ケーススタディーを用いながら体験的に学ぶ。後半では、介護支援専門員や相談支援専門員を招き、実際の事例を題材に事例検討会形式で多職種による事例理解の深め方・目標設定の仕方・計画策定の方法など、ケアマネジメントの実践技術を学ぶ。 <学習目標> ・実践技術としてのケアマネジメントについて理解できる。 ・連携の概念について理解できる。 ・多職種連携に不可欠な事例理解の深め方を理解できる。 ・情報共有の手法について理解し実行できる。	
授業の進め方	第 1 回 ケアマネジメントの概要と意義、歴史と類型 第 2 回 インテーク、アセスメント、プランニング、 第 3 回 モニタリング、インターベンション 第 4 回 エバリュエーション、ターミネーション 第 5 回 関連技術、スーパービジョン 第 6 回 連携の関係性と質、チームワーク、 第 7 回 ケア会議の必要性、ケア会議を構成する要素 第 8 回 ケーススタディー① 第 9 回 ケーススタディー② 第10 回 ケアマネジメントの実際① 第11 回 高齢者領域における課題 第12 回 ケアマネジメントの実際② 第13 回 障害者領域における課題 第14 回 その他の領域(就労・生活困窮者)における課題 第15 回 振り返りと総括	
事前学習の内容 学習上の注意	○指定したテキストを事前に読んでおくことが望ましい。 ○ソーシャルワーク論や保健・医療・福祉サービス論等の基礎的な科目に関する基本的な知識を前提として講義を進める。 ○毎回の授業終了時に、次回の資料や論文を配布するので読んでおくこと。 ○ディスカッションには積極的に参加すること。	
本科目の 関連科目	ソーシャルワーク論、保健・医療・福祉サービス論、スーパービジョン論、地域福祉論	
テキスト	①上原久:「ケア会議の技術2」(中央法規出版) ②上原久:「生活困窮者支援のための連携のかたち」(中央法規出版) ③上原久:「見立てを深めるための事例検討会」(Next Publishing Authors Press)	
参考文献	①野中猛、上原久:「ケア会議で学ぶケアマネジメントの本質」(中央法規出版) ②野中猛ほか:「多職種連携の技術」中央法規出版	
成績評価 方法と基準	1回ごとのコメントカードの提示(20%)、ディスカッションへの参加度(20%)、提出レポート(60%)の方法で評価をおこない、全体で60%以上を合格とする。	

科目名	人材マネジメント論	2単位
担当者	裴 英洙(非常勤教員)	
テーマ	医療・介護組織における人や組織のマネジメントを学ぶ	
科目のねらい	<キーワード> リーダーシップ、モチベーション、組織行動論、ケースディスカッション、相互作用 <内容の要約> 人材マネジメントは、「ヒト」と「組織」を最大限効果的に機能させるために欠かせないもので、組織が継続的に発展するために、最も重要となる活動です。経営資源の「ヒト」「モノ」「カネ」のうち、ヒトは意志と感情を持って動くものです。上手に活用すれば(＝マネジメントすれば)組織に大きな価値をもたらしますが、活用を間違えば組織の価値を減じます。ヒトと組織をマネジメントしていく方法を、講義とケースディスカッションを通じて学んでいきます。本講座の特徴は、ケースディスカッションを多めに配置しており、講師との一方向のやり取りでなく、講義参加者同士の相互作用を醸成していきます。さらに、発表機会が多くなることで、プレゼンテーション能力や傾聴力を養うこともできます。 <学習目標> ・人材マネジメントの基礎を学ぶことができる ・組織行動論の基礎を学ぶことができる ・討議を通じて他職種の視点を得ることができる ・討議発表を通じて人に分かりやすいプレゼンテーション能力を養うことができる	
授業の進め方	第1回 人材マネジメントの基礎(1) 第2回 人材マネジメントの基礎(2) 第3回 人材マネジメントの基礎(3) 第4回 リーダーシップ(1) 第5回 リーダーシップ(2) 第6回 モチベーションとコミットメント 第7回 グループとチームワーク 第8回 医師・介護・看護職のキャリアの問題点 第9回 人材の確保と定着 第10回 経営現場における人材課題(1) 第11回 経営現場における人材課題(2) 第12回 人材マネジメントの複合的課題(1) 第13回 人材マネジメントの複合的課題(2) 第14回 人材マネジメントの複合的課題(3) 第15回 総括 原則的に、「講義」+「ケースディスカッション」で構成されます。各回の内容はクラスの理解・進捗具合により、多少変更することがあります。講義内で外部からの特別講師による実務家講演を実施する場合があります。	
事前学習の内容 学習上の注意	・指定した参考文献を事前に読んでおくことがのぞまれます。 ・授業への積極的参加を重要視するため、参考文献等を読んで不明な専門用語の意味等は事前に理解してください。 ・第1回目以降は、テーマの書籍・論文・資料など教材を指示することがあります。	
本科目の 関連科目		
テキスト	テーマと課題に応じて、担当者が作成した資料等をもとにクラスを運営します	
参考文献	裴英洙「医療職が部下を持ったら読む本」(日経 BP 社) 裴英洙「医療職が部下に悩んだら読む本」(日経 BP 社)	
成績評価 方法と基準	授業での発言点(60点)、レポート(40点)により評価し、総合評価60点以上を合格とします	